



学校だより 12月号

泉区緑園五丁目28番

TEL (811) 6710

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/ryokuenhigashi/>

「実りの秋」

司書教諭 坂田泰美

11月は食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋と言われるように、たくさんのたのしみがありました。

先日、給食委員会から、給食スペシャルメニューのお知らせがありました。フェリス女学院の学生さんが百人一首にちなんだ給食メニューを考えてくれたそうです。11月25日は、「秋風に たなびく雲の絶え間より もれ出る月の 影のさやけさ」(左京大夫賢輔 作)の歌に合わせたメニューでした。雲の間から月の光がきらきら見える夜空をわかめとたまごで表現しているそうです。11月30日は、「ちはやぶる 神代も聞かず竜田川 から紅に 水くくるとは」(在原業平 作)にちなんで、あじのたつたあげでした。昔の人が感じた風情を給食メニューで表現するのは、まさに目と舌と心で楽しむ贅沢だと感じます。

11月は、風が冷たい日もありましたが、子どもたちの多くが、休み時間に校庭に出て体を動かしていました。また、6年生が、中休みなかよし外遊び企画を考え、校庭でなかよしグループごとに異学年でのなかよし活動をしていました。

さて、10月27日は、読書の日でした。本校では、その日から11月中を図書月間とし、図書委員会中心に図書活動を行いました。今年度の図書委員会のめあては、「みんなで協力して全校の人に 本を好きになってもらえるような笑顔いっぱいの図書館にしよう」です。全校児童に、ふだん読まないジャンルの本やたくさんの本を読んでもらおうと、おすすめの本紹介、放送読み聞かせ、図書館内学年別イベントを実施しました。各クラスでは、クラスごとの図書めあてを決め、それぞれ創意工夫ある活動が展開されました。12月は、人権週間にちなみ、「体も心もびょうき0プロジェクト」の取組に合わせ、「栄養・運動・心」に関連する本の紹介も企画しています。感染症予防対策で、例年と比べて制限をよぎなくされている生活が続いていますが、子どもたちはその中でも、工夫しながら生活している様子が見られます。

また、「あおむし読み聞かせの会」の方々今年度も読み聞かせを行ってくださっています。マスク着用、起立したままでの読み聞かせは大変だと思いますが、「子どもたちに本を読む楽しさを伝えられたら・・・」という思いで活動してくださっています。先日の4年生の教室で読み聞かせをしてくださったのは、佐藤雅彦著『中をそうぞうしてみよ』(かがくのとも絵本)と、クリス・コノヴァー著『つばさをもったライオン』(ほるぷ出版)です。科学読み物と物語のジャンルの違いはあるものの、目に見えないものを創造力を働かせて読むのは、共通しているなど感じながら、私自身も読み聞かせの世界にひたらせてもらいました。選書にかかる時間も相当だと思われませんが、毎月1回ずつ各クラスの子どもたちに読書の楽しさを味わわせていただいていることに感謝です。

子どもたちにとって、本や新聞などの図書資料は、心を豊かにしてくれるだけでなく、学びを深めてくれる効果もあると実感しています。「いっしょに読もう!新聞コンクール」では、学校賞と7名の子どもたちが個人賞をいただきました。(11月25日神奈川新聞19面に掲載されました。)図書資料を活用した学びが、受賞という形で実り、子どもたちも喜んでいました。そんな子どもたちを見て、教職員も感無量です。これからも子どもたちの喜ぶ姿をめざして、教職員一同が一丸となって指導していきたいです。